

鎌高新聞

発行 神奈川県立鎌倉高等学校 校長室

令和4年 1月 11日 第9号

日坂同窓生シリーズ 第1回

株式会社 帝国ホテル取締役社長 定保 英弥 様



鎌高の皆さんはじめまして！

1980年に鎌高を卒業し、学習院大学を卒業後、現在帝国ホテルの社長を務めている定保と申します。卒業後、約40年が経過した今でもこの「鎌高新聞」をきっかけに後輩の皆さんと接する機会を頂けたことに大変嬉しく心より感謝をしたいと思います。今回はこのコロナ禍で私が大切にしている言葉を紹介し、高校生活そして今後の人生を送る上で皆さんの参考になればと思います。

『逆境のときこそ、力を尽くす』

これは帝国ホテルの初代会長 渋沢栄一翁が残した多くの教えの一つです。渋沢翁は昨年大河ドラマの主人公であり、2024年から新一万円札の顔になることでも知られ、この教えを生涯大切にし、創設に携わった企業は500社以上にのぼります。その功績は「日本の資本主義の父」として世界にも知られ、当社を含めた様々な企業がその教えを継承しながら日々、日本社会の発展のために力を尽くしています。

何故、渋沢翁は「日本の資本主義の父」と呼ばれるまでに日本の発展に貢献することができたのでしょうか。

その答えには渋沢翁が残したもう一つの言葉が強く関係しているように思います。

『信用は信念から生まれる』

これは信用というものは肩書や外見を取り繕っただけで築けるものではなく、信念を持った人にだけ寄せられる、という意味の言葉です。

つまり渋沢翁は「逆境の時こそ力を尽くす」という信念を強く持ち続けながら自身の夢を追い続けた結果、周囲の人々を魅了し、また、支えられ、今日の日本社会発展の立役者と成り得たのです。

昨年来、帝国ホテルは世界的に猛威を振るう新型コロナウイルスの蔓延によって創業以来経験したことがない厳しい局面に立たされています。

昨年 5 月に私は何かきっかけを掴みたい、藁にもすがる思いで 2500 名の社員に逆境を乗り越えるためのアイデアを募りました。当初私は 100 件でも集まれば十分だと考えていましたが、実際に集まったアイデアは「5,473」件にものぼりました。社員は少しでも早く安全に帝国ホテルが営業を再開できるようその熱い思いを届けてくれたのです。私はこの時、社員へ心の底から感謝すると共に渋沢翁の強く、そして真っ直ぐな DNA が今も尚脈々と継承され、力を発揮していることに感服しました。現在、それらのアイデアを一つ一つ実行に移し、逆境に打ち勝とうと進んでいます。

さて、皆さんも新型コロナウイルスの影響により、登校制限や部活動の中止等、友人に会う機会が失われ、思い描いていたような高校生活が送れていないことでしょう。しかし、鎌高の皆さんの中には既に前を向いている人も多くいると思います。

私は今でも鎌高時代の友人と連絡を取り合うことがありますが、その際は不思議と前向きに、明るくなれる感覚があります。それはきっと湘南の風を間近に感じられる最高のロケーションでそれぞれが明るく、前向きに物事を考える礎を築くことができたからです。

鎌高生である皆さんもきっと前に進むための誠実な信念を持っていると思います。

コロナまん延により未曾有の事態となっている今こそ、自分自身でしっかりと考える姿勢を忘れずに行動し、将来に向かって自分の信念を磨き上げて下さい。

逆境のときこそ力をつくし、高校生活を有意義なものにできるよう心から応援しています。

最後になりますが、私の話で少しでも渋沢栄一翁に興味を湧いた方は是非帝国ホテルに遊びに来てください。スタッフの笑顔から脈々と受け継がれている信念を垣間見ることが出来ると思います。

それでは皆さん“明るく・楽しく・元気よく” 高校生活を送って下さい！
ありがとうございました。

*本校は 1928 年に創立され、現在までに 28,000 名を超す卒業生を輩出しています。新年 1 月から「日坂同窓生シリーズ」の連載を始めます。各界で活躍している卒業生より、現在の生徒に向けたエールを贈っていただきます。第 1 回は株式会社帝国ホテル取締役社長 定保 英弥 様(昭和 55 年 3 月 第 31 回卒業)に執筆いただきました。